

平成30年11月30日

軽米町長

山本賢一殿

提言書

軽米町百人委員会

委員長 國久孝子

はっらっ子育て部会

部会長：佐藤勝子

副部会長：古里素祐

担当課：健康福祉課

教育委員会事務局

【テーマ】

○町ぐるみの子育て支援体制の構築について

提言1：病後児保育・一時預かり保育の実施について

病後児保育・一時預かり保育を実施するためには、資格者の確保や、事業の実施場所などが必要となると思われませんが、町立の保育園と幼稚園を統合して認定こども園を創設して人材を確保し、二つの施設を有効に活用しながらするというのはどうでしょうか。町立の保育園と幼稚園が軽米町の場合は近隣に建設されているので、統合された場合はかなりの強みになると考えられます。

また、他市町村ではどのようにして人材を確保しているのかどのような形態で実施しているのかを参考にして病後児保育・一時預かり保育の実施をされますよう提言いたします。

今は共働きが多くなり病気の子供がいても何日も仕事を休めないとか、普段家で子供を育てている親御さんでも、子供を連れていけない用事の場合など、近くに頼れる親族などがいない場合子供を預ける場所があれば助かるのに、軽米町にはそのサービスが無いことが課題として挙げられました。

提言2：若者用低価格住宅の提供について

若者用低価格の住宅について建設を提言いたします。しかし建設となると多額の予算が必要と予想されます。そこで部会で出たアイデアですが、町でも空き家が増えていると聞きます。そのような空き家を若者向け、子育て世代向けにリノベーションして低価格で貸し出してはどうかという意見がありました。また、町ではメガソーラー等再生エネルギーに力を入れておりますので、若者向け住宅を借りた方には、電気料の補助をするというアイデアは軽米町の産業的取り組みにリンクした発想として内外への良い宣伝にもなるのではないのでしょうか。

町を離れていった若者たちが結婚を機にとか、保育園入所を機にとか地元で子育てしたいと思っても、町営住宅を含め一般の賃貸住宅にも空きが無いような状況です。若者向けの低価格な住宅の提供ができれば帰ってもよいと考える人がいるのではないかという意見がありました。

提言 3 : 町中に多世代が交流できる公園の設置について

町中に多世代が交流できるような公園の建設を提言いたします。子どもたちが自転車で走るコースがあったり、散歩コースがあったり、体操できるスペースがあったり、子どもを見ながらベンチでおしゃべりが出来たり、そんな公園の建設を提言したいと思います。公園を作ったら管理が必要です。管理はボランティアを募ってお願いするとか、老人クラブ等をお願いするとか、利用した人が、整備して帰るようなルール作りとかしてはどうでしょうか。

また、管理している人たちだと子どもたちでも分るように、ティーシャツであったりジャンパーであったりをそろえてあげるのはどうでしょうか。

これは今の時代子どもたちに声をかけたりした場合、不審者扱いされないためにも必要なことかもしれないとの意見もありました。

公園をつくるにしても多額の予算を必要とすると思いますので、保育園・幼稚園の休園日に園庭を開放するとか、学校の休業日に校庭を開放するとか、また中央公民館前の駐車場を休館日には車を入れないようにして公園のように利用させるとかはどうでしょうか。

また、川の中で安全に遊べるような場所も作ってほしいという意見も出されております。

軽米には安心して子供を遊ばせるような公園が無いという課題が出されました。

公園があれば、そこでお母さん同士が情報交換したり、多世代の人たちとも交流できたりできるのではないかと。

子どもたちが安心して自転車に乗れる場所がほしいなどの課題があげられました。

提言 4 : 軽米高校への進学支援について

軽米高校への支援を提言します。

軽米高校への進学者が減少しておりこのままでは軽米高校の存続が危ぶまれます。軽米中学校を卒業して軽米高校へ進学しなかった生徒に、なぜ軽米高校へ進学しなかったかアンケートを取って、分析し魅力ある軽米高校へとしていくのはどうでしょうか。

また、小学生の頃から軽米高校を知ってもらい取り組みも必要ではないでしょうか。その一案として軽米高校の文化祭に来てもらえるよう、小中学生に模擬店で使えるチケットを配布するとか、遠い子供達の為にもバスの運行をするとかの支援を町でしてはどうでしょうか。

また、町ぐるみで応援しているんだよというアピールの場として、外では、町の飲食店等がテントで何かしらの販売コーナーを設けて文化祭の盛り上げの一翼を担うというのはどうでしょうか。

軽米高校への進学者が減少していて存続も危ぶまれているし、軽米高校では、生徒が少なく自分がやりたいクラブ活動もできないなどの意見が出されました。

提言5：入浴もできる宿泊施設について

軽米町でも多くのスポーツ大会が開催されていますが、遠くから来町される方々のためにも入浴もできる宿泊施設の設置を提言します。遠くからくる方々は、前日泊まれるかもしれませんが、当日泊まって次の日ゆっくり町を見学して帰ることもできると思いますし、宿泊者が増えれば町の飲食店等にも行ってくれるのではないのでしょうか。

また、スポーツ大会に参加した人たちの中には活動後、身体をきれいにしたい人もいるのではないのでしょうか、入浴施設があれば利用すると思うのですが。

さらに軽米には入浴施設がありませんので、親子で他市町村の入浴施設を利用していると思いますけど、そうすると帰るまでに湯冷めをしてしまいます。

近くにあれば、温まったまま家に帰れるのにとの意見もありました。

更に付け加えるなら、子供たちとごはんとか食べれるところがあれば、時間の有効活用ができるとの意見もありました。

軽米で開催されるスポーツ大会にはメジャーな大会も多く、遠くの方々たちも参加されているが、朝早く出てこなければならなくて大変だとか、軽米をゆっくり見て帰りたいのに宿泊施設が無い、シャワー等で汗を流して帰りたいのでは等の意見が出されました。

高齢者いきいき部会

部会長：中里 多喜男

副部会長：松谷 タケ

担当課：町民生活課、健康福祉課

健康ふれあいセンター

【テーマ】

- 健康で長生きするための地域活動（自分たちができること）
～支え合いの心を地域の絆に（自助、共助、公助）～

提言1：健康で長生きするために

- ① 食事に対する意識が低い傾向が見られるので、毎日の「食事のチェックシート」や「健康チェックシート」を作成し、バランスの良い食事を摂るよう意識付けを図る。
- ② 高齢になると集団での運動には参加しづらい。毎週定時に「町民健康体操」や「ラジオ体操」などの番組や放送を流し、自宅や隣近所で手軽に運動できる環境づくりが必要ではないか。
- ③ 「健康づくり」の動機づけとして、健康ポイント制度を導入し、健康診断の受診や①、②の達成度合い、町の健康づくりのイベントなどに参加したらポイントを付与し、町の商品券と交換できるようにしたらどうか。

提言2：いきいきと生きるために

- ① 高齢になっても自分が働いてお金を得ることは生きがいにつながる。家庭菜園で作った野菜を気軽に販売できる仕組みがつかれないか。
- ② 将来、車の運転ができなくなることに不安を感じる。高速道路の逆走事故も高齢者が多い。高齢者の運転技能の維持や安全運転の向上のための講習会が必要ではないか。
- ③ 「趣味」を生かして楽しむことが大事です。地域に住む人の得意分野を生かした活動や、徒歩で気軽に集まれる場所ができないか。
- ④ 共食事業はとて面白い事業だと感じる。「お試しコース」的な、未実施の地区にも参加機会を作ってみてはどうか。

提言3：安全な地域づくりのために

- ① 高齢者のなかでも特に一人暮らしの方は話相手を求めている。「声かけ」や「見守り」が大切なので、かつての隣組のような10戸程度のくくりで協働組織ができないか。
- ② 地域の中でみんなが役割を持つことも必要。「リーダー」任せにならない取り組みが必要ではないか。
- ③ 冬期間に、一人暮らしの高齢者が住める共同住宅ができないか。
- ④ 免許証を返納後の買い物や通院が心配だ。オンデマンドバスや移動スーパー、買い物バスなどを検討できないか。

環境・衛生部会

部会長：浅水喜一
副部会長：高林昭子
担当課：地域整備課
町民生活課

【テーマ1】

○地域の環境を守るために協働で取り組む方策を考える

提言1：ごみ出しルールとマナーの周知の工夫、徹底

～なぜルールがあるのか、なぜ守らなければならないのか～

- ルールの作られた背景、そのルールを守らなければどうなるのかなどを理解することによって、行動に変化が表れるのではないか。広報やお知らせ版、軽米テレビなどを活用し、わかりやすく解説したものを周知してはどうか。
- 地区外によるごみの搬入、規定外のごみが持ち込まれる、住民への教育、排出の監視などの対策が重要である。(センサーライトの設置、朝夕等定時のみ持ち込みし、時間外は施錠、広報誌等による周知など)
- 行政で回収出来るもの、民間でなければ処分出来ないものの区分を周知する。(パンフレットはあるが、逆引きできるものの作成、町外からの転入者や高齢者への分別方法の講習会の開催など)
- ごみ分別は、ごみ減量と資源回収の基本であることの本質的な理由を伝えることで、徹底することができる。(3R「リデュース」、「リユース」、「リサイクル」、分別に係る費用の増大など)

【現状と課題】

- 地区外からの持ち込み問題
他の地区の人による分別の不徹底、規定外のごみの持ち込み、時間外の持ち込みにより、回収されなく残っている。
- ごみの分別と出し方について
ごみの分別の基本ルール、可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、生ごみ、粗大ごみの区別の捉え方に違いがある。地区・人によって資源ごみの分別と出し方が違う。
- たくさんの課題がある中、共通的な部分でルールの周知不足あるいは、ルールが作られた背景(なぜルールができたのか、なぜ守らなければならないのか)の啓発等が足りないのではないか。

提言2：環境の美化への継続した啓蒙活動

(ペットの散歩マナーの改善・ごみのポイ捨て禁止)

- 豊かな自然に恵まれた環境を守り町民が生活するために意識啓発を行うことで環境美化に繋がる。
- 動物愛護思想の啓発や飼育マナーの向上。
- 引き続き啓発に努めるほか、町民と協力しながら効果的な啓発を検討する。(看板の設置、広報活動など)

- 住民や利用者参加型のごみ拾いや道路脇の草刈りなどを通じ、普段からごみを捨てにくい環境をつくる。

【現状と課題】

- 河川敷等の散歩道に犬の糞がある。
- 道路脇にごみが捨ててある。

提言 3：地域コミュニティへの支援強化

- 学校跡地や公共施設の管理利用の促進（地域コミュニティの拠点整備）
- 役場と行政連絡区長との関わり方（行政事務の効率的処理、町民の福祉増進を図るためなど）
- 住民と行政が協働活動するための地区担当職員の在り方について（組織運営や活動に関する助言）
- 行政区内の交流を促進・活発化させ、自主的・自発的なものに対する支援。
- 町民の地域組織・活動への参加意識の向上を図り、地域貢献する。

【現状と課題】

- 地域をまとめる組織が無くなっている。
- 統廃合によって小学校が無くなり、学区の活動が出来なくなっている。
- 地区の行事でも集まらなくなっている。
- 近所づきあいの希薄化（親近感の希薄化、就労の増加、生活の多様化など）

【テーマ 2】

○住環境（空き家対策含む）の整備について

提言 1：少子高齢化に伴う空き家等の増加に対応する調査を深める事と実態の把握による空き家の活用の制度化

- 空き家調査を行った実績があるが、少子高齢化等により空き家が増えている状況で、その後のフォローアップが出来ていないので、実態把握と継続的な調査を行う。調査に当たり、地域の実情に詳しい方をお願いし、空き家の分類を行い、町の施策に反映させる。
- 空き家に対する制度化の推進（空き家対策条例・環境保全条例・解体費補助制度・空き家バンクなど）

【現状と課題】

- 空き家の実態が把握できていない。
- 危険な建物がある（防災性の低下・防犯性の低下・ごみ不法投棄・衛生の悪化悪臭の発生・風景、景観の悪化）

しごと・観光部会

部会長：下谷地 忠一

副部会長：荻谷 雅行

担当課：産業振興課、税務会計課

再生可能エネルギー推進室

【テーマ】

○地域資源を生かした産業の活性化について

<食をメインに>

提言1：カップ入りジェラートの開発

- ① さるなしソフトは限られた場所でしか食べられない
- ② カップ入りとすることで町内の商店やコンビニでの販売が可能となる
- ③ 機器の導入により、カップ入りジェラートからソフトクリーム化も可能となる

提言2：商品化に向けた料理コンテストの開催について

- ① コンテストを開催し地元の食材を活用したオンリーワンをリサーチする
- ② 受賞者に賞金等を与え参加者意識の啓発を図る
- ③ 副賞として限定数の試食会を開催しPRする
- ④ 広く売る人・買う人の意見を聞き、マーケティングと平行し改良を加え、商品化から販売に繋げていく

提言3：雑穀の産地「かるまい」とするために

- ① エゴマのように手のかかる商品は競合が少ないため売り上げに繋がる
- ② 専用機械の導入補助金等を創設し、増産促進から日本一の産地化を目指す

<施設利用から>

提言4：再生可能エネルギー日本一を生かした雇用の創出について

- ① 町で太陽光発電施設の維持管理作業（冬期外）を受託し、通年雇用が可能となるような仕組みを検討する
- ② バイオマス発電施設から発生する温水を利用し、大手企業とタイアップした大規模野菜生産施設等の企業誘致を図り、循環型産業の形成を推進する
- ③ 再生可能エネルギー日本一の町をキーワードに、関連企業の誘致を推進し産業振興を図る ～ かるまい型シリコンバレーの形成を目指して！

提言5：再生可能エネルギー日本一を観光スポットに

- ① 太陽光発電施設が完成すれば団体視察研修等の交流人口の増加が予想される
- ② 太陽光発電施設やバイオマス発電施設の観光スポットをキーワードに、町観光施設（フォリストパーク・ミレットパーク・ミルみるハウス・物産交流施設）等を含めた観光コースを設定し、食事や特産品のPR及び販売を促進する
- ③ 風力発電を導入することが重要、クリーンエネルギーを一通り視察できる町としてSNS等により全国にPRしていくことが可能となる

<地域資源から>

提言6：「HIGH キュー」を生かし交流人口の拡大を推進

- ① 町のあらゆるイベントに「HIGH キュー」ファンの居場所をつくり募集する ～ 今後のイベントの開催スタイルを変えるいいチャンスかも！
- ② 今年の夏祭りに台湾の「HIGH キュー」ファンが来町し、笹渡子ども太鼓の流し踊りに参加した ～ 子どもたちは英語の勉強の一環にもなり受入を大変喜んでいて ～ 要望があれば今後も喜んで受け入れる予定

提言7：「ヒメボタル」を生かし交流人口の拡大と特産品のPRを推進

- ① 現在、ヒメボタルはただ見せるだけの鑑賞会になっている
- ② インスタグラム等できれいな写真をアップすると、とんでもない多くの人がある
- ③ ヒメボタルの鑑賞時期に合わせて特産品のPR及び販売のための露店を出す
- ④ 体の不自由な方や年配の方、小さい子どもでも鑑賞できるコースを設置する ～ 「誰でも鑑賞できるヒメボタルコース」をキーワードに観光スポット化を図る

提言8：「農業体験ツアー」を生かし交流人口の拡大を推進

- ① 企業の体験型研修をターゲットに、農業体験ツアーを開催する ～ （例えば）エゴマの収穫が忙しい時期に手伝ってもらおう～ミル・みるハウスで特産品をPR～ミレットパークに宿泊（地元食材の夕食や郷土芸能を堪能してもらおう）

<情報発信から>

提言9：観光協会への情報の一元化体制の確立

- ① 町の観光や産業を発展させていくためには、関係団体全体で情報共有し、官民連携した情報発信を展開していく必要がある
- ② 現在の観光協会は、役場で事務局を併任している状況で、町全ての観光情報窓口となっていない～問い合わせ先がみんなバラバラ！～町の観光に関する情報は全て観光協会に一元化する必要がある

- ③ 観光協会に専属職員を配置する～町の観光全般についての窓口となり情報発信～来町者が気持ちよく来て、気持ちよく帰っていける体制をつくる～「軽米って良い町だよな！来てよかったね！」につながる

提言 10：来町者に優しい観光マップ等の作成と設置

- ① 町をきれいにするために、ごみポスト・トイレ等の位置も入った町内案内マップを作成し、既存のパンフレットと一緒にバス停や観光施設等に設置する
～併せて観光協会のHPでもダウンロード出来るようにする
- ② 町内に観光案内板が少ない、目のつく場所にもっと設置すべき

提言 11：ITを活用した情報発信

- ① 観光PRや6時産業化推進のため、IT専門職人を配置する
～専門職員の配置により、ネットショップ・ブログ・HPの作成や、SNS等のあらゆる手段でのPR作戦を展開する
- ② 「インスタキャンペーン」を企画する～「HIGHキュー フォトリケーション」「冬灯り（イルミネーション）」等に併せて企画し、入賞者に町の特産品をあげる～加えて町の商品券をあげるによりリピーターが増える
- ③ 「集いの広場」がどこにあるのか、何をしているのかも知らない町民達もいる～かるまいテレビ（かるまいジャーナル）をフル活用すべき！

<人材から>

提言 12：専門部署の設置

- ① 「しごと・観光」に特化した専門部署を設置する～町おこしに成功した市町村の視察研修等を行い、軽米町の町おこし専門職員を育成する
- ② 「総務課・産業振興課・商工会・集いの広場」の役割を網羅した、軽米町の観光案内の拠点づくりを積極的に進める～広い団体構成で活動ベースから見直す！

提言 13：「かるまい」について 教えて 「あげる」 「もらう」

- ① 軽米で生まれ育ち住み続ける人達で「かるまい」の良さを考え、町外に住む人達に教えて「あげる」～町外に住む人達からそれについてどう思うかを教えて「もらう」～「あげる」「もらう」の共助から良いアイデアと人材を発掘する！
- ② HIGHキューで「かるまい」を好きにたった人達に任せてみるのも一つの手では

<イベントから>

提言 14 : かるまい秋祭り「天狗のお面」で大集合

- ① 山車を引く人・祭りを見る人・商売する人～全ての人が天狗のお面をつけて参加する～10年後には観光客10万人を目指して頑張ってみませんか！

提言 15 : 若者が集まるイベント開催の拡大を

- ① 「HIGHキュー・フォトロケーション」「かるまい冬灯り（イルミネーション）」企画は良かった～今後も若い人達が集まる新たなイベントの企画を！

<その他>

提言 16 : 「かるコン」の開催方法を変更しませんか

- ① かるコンの参加条件がコスプレとなっており、それがネックになって参加者が増えない状況となっているのでは？
～都会では、体験型の交流イベントとして企画されていることが多い、例えば男女で協力作業する料理教室の開催、あるいは折爪岳のトレッキングやヒメボタル鑑賞会に合わせて開催してみるのはいかがでしょうか？
町内だけでなくHIGHキューで軽米を訪問した若者との交流の場としてイベントを開催するのも一つの方法では！

スポーツ・文化部会

部会長：國久孝子

副部会長：大清水 健治

担当課：教育委員会事務局

産業振興課、議会事務局

【テーマ】

○スポーツ・文化活動の活性化に向けて

提言1：スポーツを通じた青少年の健全育成（スポーツ分野）

スポーツ少年団活動は、青少年の健全育成につながり、生涯を通じた「スポーツの習慣化」に大きく関わります。活動を進めるにあたり、送迎等の問題によりスポーツ活動の機会が失われることのないように、参加者送迎を行政が担う等して親の負担軽減を図ることが望まれています。

- ・スポーツ少年団活動への送迎バスの配車をいただく。
- ・指導者育成のためのスポーツ講習会について、受講者が参加しやすいよう旅費等を支援いただく。
- ・用具など、活動に必要なものは自己負担が多いので、その購入や経費の軽減を図っていただく。

【現状】

- ・スポーツ少年団活動は、子どもたちの体力向上や人格形成の役割も担っています。
- ・夜や土日のスポーツ少年団活動では、「送迎」に親の負担が大きい現状です。それが、スポーツ少年団に加入する子どもが減少する1つの起因となっている。
- ・子どものころからスポーツに親しむことができれば、生涯を通じての「スポーツの習慣化」につながると考えられます。
- ・用具など、活動に必要なものは親が用意しています。スポ少の経費については、ほぼ自己負担しています。

提言2：スポーツの習慣化（スポーツ分野）

町民の健康づくりには、生涯にわたってのスポーツ活動が欠かせない要件であり、スポーツの習慣化が重要となります。競技スポーツだけではなく、健康寿命の延伸にもつながると考えます。

- ・すべての子どもにスポーツを体験させ、スポーツを好きになる環境づくりが必要だと思います。子どものころからのスポーツの習慣が定着すれば大人になってもスポーツを続けることにつながります。

- ・スポーツを推進するためには、指導者やリーダーの養成を図り、その有効な活用を促進することが大切と思います。
- ・高齢者も楽しんで出来るスポーツを何種類か選び、定期的に地域で集まり実施してはどうでしょうか。室内で出来るものでも楽しいものがあると思います。
- ・ニュースポーツを定着させ、継続するようになれば、それを見て面白いと思い参加する人が増えて、それを繰り返して行けば、良いサイクルが生まれると思います。
- ・高齢者、障がい者を含めた町民全体で、健康づくりに取り組む必要があります。医療費の抑制のためにも、高齢者のスポーツ活動をより奨励することが大切です。

【現状】

- ・体育館やグラウンドを利用してスポーツに取り組む方はあまり多くはない
- ・子どもの頃からスポーツに親しむこと、加えて高齢者スポーツの普及として、気軽に取り組めるニュースポーツ等が少ない。

提言 3：中央公民館の土地利用（文化分野）

現在の中央公民館、図書館は、新しくできる交流駅にその機能を移転することとなりますが、後に残る老朽した中央公民館、図書館、蔵、公衆トイレを含めた建物は、特別必要な利用方法も思い浮かばない中では、その維持管理の経費を考えた場合、全て取り壊すことが望ましいと考えます。

跡地に関しては、管理の必要な遊具は置かないでベンチくらいの整備として、人が集まりやすい公園や緑地としての利用が良いのではないかと思います。

【現状】

中央公民館、図書館は施設の老朽化が進み、さらに駐車場も狭く不便を感じています。新しい施設を建設、機能移転すれば、古い施設はいずれ使わなくなります。町には現在子どもがいつでも気軽に安心して遊べる公園等が乏しい状況です。

提言 4：（仮称）交流駅をどのように活用するか（文化分野）

町の文化活動の活性化を図るためには、交流駅の有効な活用を考えて行くことが必要となります。今あるイベントを整理し、より多くの人が集まり交流する計画について協議を進めて行くことが必要と考えます。

- ・第一に人が集まらなければ活性化につながらない。そのためには、ステージを使ったイベント等で町内はもちろん、時間や経費がかかっても町外からも集客できるような大きなイベントを年に1つか2つは企画することを望みます。
- ・町外の方が交流駅に立ち寄った時に、町を紹介する簡単で解りやすいブースがあれば、情報発信につながるのではないかと。

- ・子どもがいつでも遊べる施設として、屋外に夜間照明付きの3バイ3バスケットコートや、小中学生が興味を持って訪れるような設備として子ども用ボウリングコーナー等の設備も検討をお願いしたい。
- ・展示物の掲示・飲食を伴う会合に使いやすい部屋・喫煙スペースの設置に配慮して準備を進めていただきたい。

【課題】

交流駅がオープンしたとき、従来の公民館や図書館事業の利用者だけでは、交流人口の増大にはつながらない。大きなステージイベントの招致開催や物産や観光の側面も含めて利用促進を図って行かなければならない。

軽米町には子どもがいつでも安心して遊べる公園・施設が乏しく、幼児や小中学生が気軽に楽しめる遊具施設の整備により、子どもや親も含めた交流が広がるのではないかと。